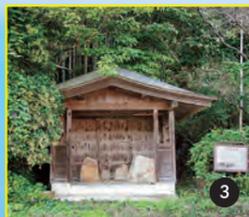


History

福津市に残る
貴重な文化財から
福津の長い
歴史を知る



指定登録文化財

- ①恋の浦海岸
- ②在自西ノ後、墨書磁器
- ③赤御堂板碑
- ④波折神社の銀杏



世界遺産

いさば会
有吉敏高さん

世界遺産登録となった日の喜びを忘れることはできません。この地を郷土の誇りとして、我々はずっと先の年代まで美しく守っていく使命があります。偉大な歴史の価値を無駄にせず 1500 年もの間守り継いできた地元の人たちの想いを全国に発信していきたいですね。

第41回世界遺産委員会において「新原・奴山古墳群を含む『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」が、8つの推薦資産全てを含み世界遺産に登録されました。登録へ向けた活動は15年。沖ノ島だけでなく、その関連遺産群まで含めた登録となった背景には、多くのかたがたの国をあげての地道な活動、地元の強い熱意があったことを忘れてはなりません。

「神宿る島」宗像・沖ノ島と
関連遺産群の構成資産として

新たな価値を未来へ

新原・奴山古墳群の

世界遺産に登録された

- 世界遺産登録へのあゆみ
- 平成 17(2005)年 3月
新原・奴山古墳群を含む津屋崎古墳群が国指定史跡となる
 - 平成 20(2008)年 3月
『国指定史跡 津屋崎古墳群 整備基本構想』(市計画)
 - 平成 21(2009)年 1月
ユネスコ世界遺産暫定リストに記載される
 - 平成 28(2016)年 1月
日本政府がユネスコ世界遺産センターへ登録推薦書を提出
 - 平成 28(2016)年 3月
『国指定史跡 津屋崎古墳群 整備基本計画に関する再検討 - 新原・奴山古墳群の整備計画 -』(市計画)
 - 平成 29(2017)年 7月
第41回世界遺産委員会(ポーランド・クラクフ)にて世界遺産登録が決定



Baton to the future

未来につなぐ幸福のバトン

4



九州大学名誉教授
前「津屋崎古墳群」整備指導委員長
西谷 正 先生



新原・奴山古墳群の
世界遺産としての価値

イコモス(国際記念物遺跡会議)の現地調査において、沖ノ島は「古代祭祀の考古記録を保存する類まれな宝庫である」という表現で絶賛されました。「新原・奴山古墳群」は、古事記・日本書紀に記録されている、沖ノ島で古代祭祀を実際に執り行った「宗像君」(現在でいう福津市と宗像市を合わせて統括していた長)の存在を裏付ける遺跡として大変貴重な価値を有しています。当時、玄界灘を船で往来していた日本の航海と外交の無事を祈って、行くのも困難な沖ノ島で祀りを捧げた古代祭祀の実態を通じて、東アジアの国際交流の様子までうかがうことができる世界的に稀に見る遺産であり、それを立証する関連遺産群を含めてこの世界遺産が成り立っています。

世界遺産のあるまち
福津市の役割

福津市に住む子どもたちが、学校の郷土学習などにおいて、わがまちの世界遺産を知り、現地で親しみ、さまざまなことを学び楽しむことが大事です。「新原・奴山古墳群」を専門家や一部の愛好家だけの問題にせず、福津市全体でふるさとを知った上で大切に守ってほしいと思っています。世界遺産登録された一時の盛り上がりで終わることなく、想いが継承されて次の世代にバトンタッチされていくことを期待しています。

PICK UP



世界遺産学習帳

授業で初めて古墳を見て大きくて驚きました。自分の市に世界遺産があつて歴史があるまちなんだなとうれしく感じました。



小学校で世界遺産を学ぶ
佐藤 錬介さん

この壮大な歴史の価値を
活かせるか!?

世界に誇る 福津の歴史

PICK UP

